

科目名	映像リテラシー E 1							年度	2025
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 2 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	長濱和久			教員の実務経験		あり	実務経験の職種		映像PD
【科目の目的】 ネットを中心とした新たな映像メディアの台頭により過渡期を迎えている業界の現状を各メディアの成り立ちや特性を学ぶ事で理解し卒業後のビジョンを明確化する事を目的とする。									
【科目の概要】 授業の前半では業界時事問題を取り上げ最新の業界動向や問題点を明らかにすると共に後半では映像メディアがビジネスとして成り立つ仕組みを媒体ごとに解説。学生の理解度を確認する為に授業内レポートを実施。これらを授業内でフィードバックする事で他者の考えを知る機会を与え自らの考えを導き出す。									
【到達目標】 映像メディア業界の現状に対する理解からテレビ・映像メディアの将来を予測し“考察力”“分析力”の向上を図る。									
【授業の注意点】 授業内で取り上げる現状やデータを自ら分析する事で自分自身の考えとして確立する事を求める。授業内での積極的な発言については平常点に加算する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5		レベル3			レベル1			
	優れている		ふつう			要努力			
到達目標 A 映像の役割	メディア（媒体）のひとつとしての映像の役割、機能を正しく理解している		メディア（媒体）のひとつとしての映像の役割、機能のある程度理解している			メディア（媒体）を理解していない			
到達目標 B 映像とビジネス	経済価値をふまえたメディア（媒体）としての映像を正しく理解している		経済価値をある程度理解している			理解していない			
到達目標 C 映像メディアの可能性・未来	TVほか映像メディアの現状と問題点、可能性を正しく理解している		TVほか映像メディアの現状と問題点、可能性をある程度理解している			理解していない			
【教科書】 教科書/教材は特に使用しない 資料については授業内に適時配布									
【参考資料】 教科書/教材は特に使用しない 資料については授業内に適時配布									
【成績の評価方法・評価基準】 期末試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		映像リテラシー E 1			年度	2025
英語表記					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	
1	テレビは死んでしまうのか？				データからテレビ現状を理解。映像メディア	
					の発展構造から将来について考える。	
2	映像で情報を伝える①			映像で情報を	サイレント映画の試写から“映像”の	
				伝える①	チカラを理解する	
3	映像で情報を伝える②			映像で情報を	落語番組の試写から“言葉”が持つチカラ	
				伝える②	を理解する	
4	映像で情報を伝える③			映像で情報を	映像がメディアとなった時に何が起きたか？	
				伝える③	プロパガンダについて理解する	
5	授業内レポート①			授業内レポート①	映像で情報を伝える事について各自の考えを	
					試写した作品の感想をもとに述べる	
6	映像メディアが成り立つ仕組み①				映像メディアがビジネスとして成り立つ	
					仕組みを理解する	
7	映像メディアが成り立つ仕組み②				テレビCMについて理解する	
8	映像メディアが成り立つ仕組み③				有料多チャンネルビジネスについて理解する	
9	映像メディアが成り立つ仕組み④				映像配信サービスの現状とビジネスについて	
					理解する	
10	映像メディアが成り立つ仕組み⑤				映画業界の現状を理解する	
11	テレビの未来を考えるヒント①				地上波 I P サイマル放送の現状と問題点を	
					理解する	
12	テレビの未来を考えるヒント②				欧米諸国のテレビ業界の現状を理解する	
13	授業内レポート②				テレビの 10 年後を予想する	

14	模擬試験①			学生の理解度を確認し問題点を明らかにする		
15	模擬試験②			学生の理解度を再確認する。		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						